

空缶

林 京子

内容理解

この文章で作者は、母校を訪れる五人の同窓生の思い出話をつづり、彼女たちに、彼女たちの、現在に至る戦争体験を語らせている。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

◇廃校前の校舎

- ・コの字形のコンクリート四階建ての校舎。
- ・窓の全てにガラスが入り、よく磨いてある。

思い出・今の感慨

◇講堂の思い出

- ・長椅子や机、ピアノなど道具類や舞台の幕は運び出されている。
- ・ 4 に向かって黙禱する。
- ・被爆者ではない西田の述懐。

◇被爆者として生きる。

- ・大木の心配
- ・西田の励まし

1 投下から卒業までの二年間、この校舎には窓ガラスが一枚もなかった。

2 で窓枠は弓なりに曲がり、尖ったガラス片がところどころ、残っていた。目隠しが要る場所には、板切れが打ちつけてあった。……………

3 の年の十月、生徒と先生の追悼式が行われた。原と大木は、兵器工場で被爆し、ここに重態の体を横たえた。何十人かの女学生は、この床の上で亡くなる。父母たちの前で、クラスごとに亡くなった 5 た 4 ちの名前が読み上げられた。

被爆したかどうかで、結びつき方が違う。被爆していない私は、 6 大会の情景が 7 に浮かんた。四十歳を過ぎ独身、中学校教員の大木は、来春、離島への赴任を命じられ、原爆病院から離れることが不安。

「予定が組まれたら進まなきゃならない、それが生きるってこと」

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。
矯正（二六七・下8）

微妙（二七〇・上12）

懸案（二七一・下13）

異動（二七二・上3）

◇ガラス

- ・ 欠席のきぬ子についての
大木の説明

- ・ 言論大会のきぬ子

◇T先生

- ・ 私はきぬ子と三十年ぶりに
T先生の墓参りをした。

◇教室

- ・ 大木の背中から出たガラス
- ・ きぬ子の空缶

島原で小学校教師をしているきぬ子は、体育のマット運動で背中に痛みを感じ、原爆の時にさきだったガラスかと

レントゲンを撮り、ひとつを摘出した。入院して幾つかあるガラスを抜くために、今日は欠席した。▲……………

被爆後、両親を即死で失い、髪の毛が抜けて坊主頭になったきぬ子は、⁸□□について話をした。

きぬ子は、兵器工場に生徒について、⁹□□したT先生が即死した現場を見ていて、最期の叫びを聞き取れなかったことが、心の負担となっていた。先生を焼いた所の檜の木の根を叩き、小さな叫びをあげる。とげをさしたの？との私の問いに、「ガラスさ」と答えた。▲……………

四、五年前、背中から摘出したガラスは、小さなガラス片が脂肪の核になり、¹⁰□□のように包み込まれていた。▲……………

空缶に両親の骨を入れて、授業の時、机の上に置いていた。

あした入院するきぬ子の背中から、三十年前のガラス片は、何個出てきて、どんな光を放つのだろうか。

主題

この作品で作者はどのようなことを描こうとしたと思われるか、次のことに着目して、百字程度でまとめてみよう。
〈着目点…被曝したときに刺さったガラス〉

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・ 旧制の高等女学校とは、どのような学校だったのか。

・ 婦人参政権とは、どのような問題なのか。

・ 「兵器工場への動員」とは、どのようなことか。

100